

2025/01/19/強化部資料

2026 年度のリーグ戦実施方法について（議論継続の懸案事項）

□1 月理事会で強化部より原案提示

□3 月理事会で最終決定

-----【理念ベース】-----

1 部の編成を検討する視点を「インカレに向けた強化」に絞る

□ リーグ戦の意義の定義

- ✧ 様々な選択肢を試してチーム力を高めること
- ✧ 1 巡目の結果を受けて 2 巡目にその結果を活かすこと
- ↳ 2 巡制が相応しい

□ 10 チームの完全 2 巡制は日程的に難しい…10 チーム編成なら 1 次 2 次を分ける必要性がある

- ✧ 2 次リーグの上位下位のチーム数はインカレ枠数により決定してきた
  - ~2018 : 8 チーム 1 巡→上 4 + 下 6 (1 部 4 + 2 部 2)
  - 2019 : 8 チーム 2 巡
  - 2020 : コロナにより不開催
  - 2021 : 8 チーム 1 巡
  - 2022 : 10 チーム 1 巡→上 4 + 下 6
  - 2023 : 10 チーム 1 巡→上 5 + 下 5
  - 2024 : 10 チーム 1 巡→上 4 + 下 6
- ✧ 学連としてコンロトールできない要因に依存する状態

□ 8 チームの完全 2 巡制は日程的に可能

-----【データ分析の結果】-----

インカレの結果から言えること

- 2022~2024 のインカレベスト 4 入（枠取り）はできていない
- インカレベスト 4 のチームとの対戦に接戦が生まれてきた

リーグの結果から言えること

- 1 巡目のデータから
  - 2022~2024 において 1 巡目の 7 位以下が 1 巡目の上位 6 チームに勝ったことは
  - 2022 の園田（1 巡 7 位→最終 8 位）が立命（4 位→最終 2 位）に勝った以外にない
  - 現状では 1 次リーグ上位 5 チームが拮抗している
  - 2022(4-6) 2023 (5-5) 2024 (4-6) の上位リーグでは
    - ✧ 半数以上チームが 2 次リーグで順位が変わっている
    - ↳ 現状では「インカレに向けた強化」の視点からは上位 5 チームの 2 巡が必要

-----【選択肢】-----

1 次リーグ上位 5 チームが確実に 2 巡できる選択肢

1 案：8 チームの完全 2 巡制（14 試合）…強化部原案

メリット

- インカレ枠の変動影響を排除できる
- インカレ枠/入れ替え戦枠を争う戦いを全試合を通じて行える
- 1 部の全学生に個人賞の権利が与えられる（インカレに向けた強化の視点ではない）

デメリット

- 2025 シーズンの 1⇔2 部入れ替え戦が複雑になる→2 段階方式を想定
- 2 部以下の編成にも大きく影響する
  - ◇ 現行の 12+2=14 の検討が必要
  - ◇ 2⇔3 部入れ替え戦の想定が必要
- 1 部でプレイできる学生が減る→関東に流れる学生が増える可能性

2 案：10 チームの 1 巡→上位 6-下位 4 の 2 巡制（上位 14 試合，下位 12 試合）

メリット

- 2025 シーズンの入れ替え戦が下位 2 チームだけで従来通りで可能になる
- 2 部以下の編成に影響がない
- インカレ枠が 6 でも 5 でも上位リーグは「インカレに向けた強化」に繋がる
- 1 次リーグから緊張感の高い試合ができる
- 1 部でプレイできる学生が増える→関東に流れる学生を減らせる可能性

デメリット

- 下位が入れ替え回避戦の様相を呈する
- インカレ枠が 7 にならない限り 1 巡目で 7 位以下になるとインカレが消える（これまで 6-4 が検討されなかった理由）
- インカレ 7 枠を実現して下位リーグにもインカレ可能性を創る
- "妥当関東"を唱えて結束してきた関西女子学連が新たに目指す目標像が生まれる
- パイを減らす"減点方式"ではなくパイを増やす"夢のある"強化策を模索する

-----【将来構想（仮；要検討）】-----

• 1 部：強化

- 2 巡制
- 審判 3 人制（公認）

• 2 部：強化+育成

- 2 巡制：12 チーム：6-6 の並列方式…10 試合+1 試合を提案
- 審判 3 人制（公認）…実現可能性について審判部の意見が必要

• 3 部：育成+普及

- 1 巡+2 次リーグ制
- 審判 2 人制（公認・帯同）

• 4 部：普及

- 1 巡制
  - 審判 2 人制（帯同・帯同）
-